

(2) 意見交換

- ：いきなり重ね梁の設計を検討するのは難しい。もう少し身近なところ(例：木造の壁量の略算式の意味など)から設計者の技術向上をはかる取り組みが必要。
- ：鉄筋補強した梁については、木と鉄筋の熱膨張率は違い、経年変化の試験も必要では。
- ：試験はどのようなところで行っているのか。
- ：県もしくは他県の林業試験場等を使っている。
- ：特許のない金物でできないかについて、勉強会をしてはどうか。
- ：重ね梁は、県の指導としてやっていくということか？
- ：そうではない。今回の格技場については、基本的に集成材を活用すればよいと考えているが。林業振興の観点から一般流通材を活用した構法も考えたいという意見もあり、今後のために、このような構法も検討してみようということである。
- ：一般流通材で重ね梁をつくらうというのは、木材使用の推進の観点から非常によい案だと思う。ただし、構造的な特性等について、理解が必要である。重ね梁は梁が一体化しているわけではないので、例えば2本重ねの場合、構造計算では梁せいが2倍になるわけではない。梁のたわみは梁せいの3乗に比例するので、同じ梁せいの一体の梁材と比べて、構造的には不利である。つまり、一体の梁材より梁のサイズを大きくする必要があり不経済となる。また、高野口の体育館は強風時のきしみ音がすごい。こういった音などは、クレームになりやすく、施工者としてはつらい。
- ：構造計算ソフトがなく、手計算になるため、構造設計は大変だろう。現場には、計算と同じ性能の材が入るわけではないため、含水率やヤング係数等を踏まえてどう設計するか。
- ：1設計者ではできないことではない。どれだけ行政がバックアップしてくれるかが鍵。ノウハウを蓄積することが重要である。また、今までのデータを整理することも必要だ。
- ：「木造とはこんなもの」というルールをつくってはどうか。表面の含水率がこのくらいなら内部はどのくらいとか、幅を明確にしてほしい。
- ：製材所では、幅を見てもらって、そのうちの最低値で表示してもらったらよい。
また、JAS材でも無等級の材と値段があまりかわらず、製材所にとってはJASをとるメリットがない。例えばE90などの高性能の材は、もっと付加価値がついてもよい。
- ：県が現に持っているデータを提示できないか。散在しているデータを集めて見ると、何か見えてくるのではないか。
- ：林業試験所で行っている試験による強度等の出現率データなどは公表している。
また、そういったデータをもとに、紀州材の横架材スパン表を作成して公表している。
- ：ある市町村の木造武道場を設計している。地元材を使うため、JAS材であることは条件から外した。ただし、含水率だけは測定してもらった。建物の規模等に応じて、使い分けがあってもよいのではないか。
- ：県としては、できるだけJAS材でお願いしたい。
- ：実験棟のようなものを建てさせてもらえたらありがたいが。
- ：JAS材は、よりどころとなるので、JAS材を原則とすべき。地域の材を使うために外すのは仕方ないが、その場合には、JASにかわる信頼できるデータがほしい。